

山陽小野田市ふるさとづくり協議会 令和５年度中学生市議会 報告書

令和５年８月３日（木）

午後２時３０分～午後５時００分



主催：山陽小野田市ふるさとづくり協議会

議事日程

日程１ 一般質問

１番 竜王中学校 小路 史帆 議員、中野 愛華 議員

- ・誰もが気軽に利用でき、ボールなどを使用して遊べる公園を増やすこと
- ・学校給食の量について
- ・今ある観光スポットの魅力発信について

２番 小野田中学校 河本 芽郁 議員、山田 さくら 議員

- ・「小さな親切、実践宣言都市 山陽小野田市」として、もう一度「シンボルの塔」をみんなが見えるようなきれいな状態を復活させてはどうか？
- ・山陽小野田市がSNSを使って情報発信していることをもっと知ってもらう。
- ・山陽小野田市の銘菓をつくる。
- ・地域の美化活動をみんなで盛り上げたい！小さな親切運動の活動の１つでもある「コスモス作戦」を行い、山陽小野田市を花いっぱいの魅力あふれる街にしたい！

３番 高千帆中学校 坂本 風雅 議員、矢田 こころ 議員

- ・山陽小野田市の防災対策について
- ・小野田駅・厚狭駅の開発について
- ・若者が住みたくなる仕事と子育ての両立の街づくりについて（少子化対策）

４番 厚狭中学校 伊藤 椿 議員、高木 彩衣 議員

- ・厚狭駅をもっと元気にしたい！
- ・厚狭で子育てしたい人を増やしたい！
- ・自然災害から厚狭のまちを守りたい！
- ・農業で厚狭のまちを元気にしたい！

５番 厚陽中学校 河口 満哉 議員、山本 華凜 議員

- ・農業に関わりたい若者の誘致。
- ・ゴルフ場を使って音楽フェスを開催。
- ・厚陽小中学校の生徒を全国から募集する。
- ・案件で多少有名なユーチューバーに山陽小野田市をPRしてもらう。

６番 埴生中学校 坂本 颯 議員、山崎 彩花 議員

- ・公園の遊具の定期的な点検、修繕（塗装）などを行ってほしい。
- ・公園にゴミ箱の設置をしてほしい。
- ・日頃使われていない施設をもっと利用して、マーケットなどを開いてほしい。

議長感想 厚見 唯人 議長、山縣 千種 議長

日程２ 講評

山陽小野田市長、山陽小野田市議会議長、山陽小野田市教育長

日程３ 主催者お礼 山陽小野田市ふるさとづくり協議会会長

日程 1 一般質問・答弁要旨

1 番 竜王中学校 小路 史帆 議員、中野 愛華 議員



《質問事項》

- ・誰もが気軽に利用でき、ボールなどを使用して遊べる公園を増やすこと
- ・学校給食の量について
- ・今ある観光スポットの魅力発信について

《市からの回答》

- ・誰もが気軽に利用でき、ボールなどを使用して遊べる公園を増やすこと
(篠原協創部長)

赤崎運動広場は、市の体育施設とされており、市民体育館や市民プール、野球場、サッカー場など同様の施設として位置づけられています。

これらの体育施設は、様々な方々がスポーツの練習や大会などで使用する施設となっておりますので、利用者を事前に把握し、利用の調整を行う必要があります。このため、施設の使用に際しましては、一定のルールに基づき、事前に申請していただき、許可を受けていただく必要があります。

また、小学生や中学生が利用される場合は、保護者の方に利用の申請を行っていただき、利用の際にも立ち会ってもらうことを条件に使用の許可をしています。

このように、赤崎運動広場を使用する際は、申請や許可を受ける手続きが必要ですが、ボールなどを使用できる体育施設となっておりますので、思い切り楽しんでいただきたいと思います。また、竜王中学校区では、申請をしなくてもボールを使って遊べる公園に新沖緑地がありますので、こちらを御利用いただきたいと思います。

なお、赤崎運動広場の利用におきまして、御質問にありました申請をなくしたり、簡素化したりするということにつきましては、体育施設として整備した経緯を調べることや、現在利用されております団体の方々との調整を図ることなどが必要と考えられますので、変更できるかどうかも含めて、調査をしてみたいと思います。

・学校給食の量について

(長友教育長)

学校給食センターでは、文部科学省の学校給食摂取基準に基づいて、いろいろな食品を組合せて、バランスよく食べられるように献立を作成して、1日に必要な栄養素量の3分の1から半分が取れるように、給食を提供しています。食べる量には個人差があるため、量が多いと感じる方もおられると思いますが、中学生の時期は、体が著しく成長する大切な時期でありますので、より多くの栄養素をバランスよく取ることが重要です。教育委員会としましては、まずは、しっかり食べていただきたいと思います。

また、楽しく食事をする、たくさん食べられるということも聞いたことがあります。これまで、コロナ禍で黙食でしたが、それも緩和されてきましたので、給食を友達とお話ししながら、楽しく、しっかり食べられるような、雰囲気づくりをお願いしたいと思います。

また、竜王中のように問題意識を持って残食減らそうデーを設定するなど、残食を楽しくなくす方法も実践している学校が市内に幾つかあります。教育委員会としましては、事例をほかの学校に紹介していき、残食を減らす取組を進めてまいりたいと思います。

・今ある観光スポットの魅力発信について

(篠原協創部長)

幸せの鐘につきましては、平成29年4月に市の観光振興策の一環として設置をしました。この幸せの鐘と夕日100選に選ばれているきららビーチ焼野とのコントラストを生かした写真がとれるビュースポットとして、若者を中心に、InstagramなどのSNSを活用した情報発信に期待し、焼野エリアの観光振興を目的に設置したものです。

現在は、市の観光協会のホームページにおきまして、自然公園の観光地として紹介をしているところです。御承知のとおり、幸せの鐘は、モニュメントの形がハートの形をしています。また、竜王山展望台に設置しております観光案内版には、四つのハートマークが隠されております。これらのハートマークをもとに、きららビーチ焼野と竜王山公園を含めた、この焼野海岸エリアをハッピースポットとして結びつける取組を行うことも考えており、御質問にありました、きららビーチの海に反射する夕日とのコントラストともあわせて、観光スポットの情報として発信していきたいと考えております。

また、焼野海岸にありますきらら交流館は、現在施設改修のため休館となっております。令和9年にリニューアルオープンを予定しておりますので、その際には、きらら交流館を拠点とし、幸せの鐘を含めた、焼野海岸エリア一帯の周遊につながるイベントなどの実施も検討してまいりたいと考えております。

特に観光スポットにつきましては、そこにまつわる由来や物語を添えて、より魅力が引き出せる形で情報発信を行い、多くの人に本市を訪れていただき、地域の活性化に結びつくよう取り組んでまいりたいと考えております。

《再質問》（小路議員）

私たちが考える食品ロスについて、補足させていただきます。この問題を改善するためには、ふだんは余り食べない児童や生徒にも、少しでも多く給食を食べてもらうことが重要になってくると思います。そのため、一つの案として、児童や生徒の意見をメニューに取り入れるため、タブレット端末を活用し、アンケートを実施し、児童生徒から人気のあるメニュー、苦手とされているメニューを調査してみてもはどうでしょうか。

また、手間は掛かりますが、野菜が苦手な児童生徒でも食べやすいように、具材をもう少し小さく切ってみる方法も良いと思います。

しかし、このような改善策を実行しても、一人一人が食べることのできる量には、その人の体格や、その日の体調で個人差があるので、残食をゼロにするには難しいと考えます。

このようなことから、給食センターから配給される給食の量を調節することは出来ないのでしょうか。もしも出来ない場合には、現在、SDGsが世界において注目されている中、残食を含め、食品ロスについて、教育委員会ではどのように考えておられるのか、回答をお願いします。

《市の回答》（長友教育長）

給食の好みのアンケートについてです。昨年度からリクエスト給食の献立作成のために、同様のアンケートを実施しております。アンケート結果を御飯、パン、麺類、主菜、副菜、デザート分類ごとに集計を出して献立作成の資料としています。ただ、苦手なメニューについては、今、調査をしておりませんので、今後の検討課題とさせていただきます。

次に調理の工夫についてです。給食センターでは、これまでに、残食の傾向を見て、御飯が食べにくい献立は混ぜ御飯にしたり、苦手な食材は小さく刻んでカレーなどの料理の中に入れて食べやすいようにしたり、和え物も単調な味にならないよう、新しいドレッシングを取り入れたりして、献立内容を見直しております。また、温食は小学校、中学校と釜を分けてつくるため、好みに合うように、味つけも変えております。

このように、残食を減らすように取り組んでいますが、さらによい方法がないか、他市町の取組などを参考にしながら、考えていきたいと思っております。

最後に、給食の提供量の変更についてです。議員さんが御指摘されたように個人差やその日の体調等によって、食事する量が変わってしまうため、提供量を変更して残食をなくすというのはなかなか難しいと考えています。

この食品ロスの問題に対して、皆さんとは、残食を減らすリデュースの観点から、今議論をしているわけですが、少し発想を変えて、リサイクルの観点から考えてみてはどうかと考えています。例えば、学校で食べ残した給食をコンポストなどで堆肥に変えるという発想です。堆肥にすることができれば、学校の花壇や畑などに使うことができるため、食品ロスの問題を解決する方法の一つになるのではないかと考えます。

市教育委員会としましては、食品ロスの問題については、様々な観点から、学校だけでなく、家庭地域と連携して、何か取り組めないか検討してまいります。



《質問事項》

- ・「小さな親切、実践宣言都市 山陽小野田市」として、もう一度「シンボルの塔」をみんなが見えるようなきれいな状態を復活させてはどうか？
- ・山陽小野田市がSNSを使って情報発信していることをもっと知ってもらおう。
- ・山陽小野田市の銘菓をつくる。
- ・地域の美化活動をみんなで盛り上げたい！小さな親切運動の活動の1つでもある「コスモス作戦」を行い、山陽小野田市を花いっぱいの魅力あふれる街にしたい！

《市からの回答》

・「小さな親切、実践宣言都市 山陽小野田市」として、もう一度「シンボルの塔」をみんなが見えるようなきれいな状態を復活させてはどうか？

(辻村経済部長)

小さな親切運動は、昭和38年、3月に大学の卒業式で校長が卒業生に向かって、送ったことがきっかけとなって、それに感銘を受けた人々によって運動が全国に広まっていったものです。

この運動は、市町村が運営しているものではなく、小さな親切運動の考えに賛同する民間企業などが会員となって活動されています。御質問にあるバイパス沿いのシンボル等も、この小さな親切運動の団体が設置されているものですので市からは御要望としてお伝えしたいと思います。

また、先ほどありましたように、草刈りや木の伐採等については道路を管理している

団体、機関にもお伝えできればと思っています。

なお、このシンボルマークは、親切な小さな芽が温かな太陽の光の中で、すくすく成長する様子をあらわしているとされています。山陽小野田市が、親切で温かい心に満ちた、活力と笑顔あふれるまちになるよう、皆さんにも是非小さな親切を実践していただければと思います。

・地域の美化活動をみんなで盛り上げたい！小さな親切運動の活動の1つでもある「コスモス作戦」を行い、山陽小野田市を花いっぱいの魅力あふれる街にしたい！

(岩佐市民部長)

生徒会の活動を通じて、クリーン大作戦を行っておられること大変ありがとうございます。また、環境美化活動について、汚れている場所をきれいにすれば、ごみを捨てる等々の発想を持っていらっしゃることに市としても心強くうれしい限りです。

本市におきましては、快適環境づくり協議会と自治会連合会が主催して、5月に海岸漂着物のごみ拾い、6、7月に山陽地区で5000人規模の河川清掃大会、8月にはおもてなし大作戦と称して市内一斉の清掃活動を行っています。その中でも、海岸漂着ごみにつきましては、津布田海岸、縄地ヶ鼻海岸、焼野海岸を順番に海岸線構想を行っております。その際には、近くの中学生の皆さんも、地域の皆様に混じって海岸清掃を行っていただいていることに大変感謝をしております。

このほかにも、7月のやけの美タフェスタに合わせ、ごみ拾い選手権と称しまして、海岸漂着ごみを拾い、その回収内容を競って、楽しくボランティア活動ができる行事にも御参加いただいていることにあわせてお礼を申し上げます。

ただ、この海岸漂着ごみだけでなく、道路や公園などにも、ごみが散乱している場所があり、その対応にも苦慮しているところです。

市では中学生の皆さんが、環境美化活動として、ボランティア清掃を行われる際には、ごみ拾いのために必要な道具の貸出しやごみ袋の提供をさせていただきたいと考えていますので、環境美化活動の計画段階で、環境課に御相談いただければと思います。

また、本市にはアダプトプログラム事業という活動があります。この事業は、自分たちのまちは自分たちできれいにしようという理念のもとに、市民と市が協働で行う環境美化活動です。活動は個人でも団体でも参加でき、市はその活動に対してごみ袋や清掃道具を支給し、参加者の保険加入も行っておりますので、御紹介をさせていただきます。

今後も本市のごみ問題について、前向きに取り組んでまいりますので、どうぞ御一緒に活動いただけたらと思います。

(長友教育長)

現在、山陽小野田市では、学校や地域と連携して、きれいな花壇を増やし、市内を花いっぱいにしていこうという「花いっぱい運動」を行っています。地域の団体の協力を得て、育てていただいた花の苗を、春はサルビアとマリーゴールド、秋は葉牡丹とノースポール、キンセンカの苗を配布しています。皆さんの中学校にも、花の苗が届き、今一生懸命お世話していることと思います。

さて、市内でコスモスと言えば、江汐公園のコスモスロードや花の海のコスモス畑が広く知られていますが、河川敷や国道沿いの畑など、市内でもところどころ目にするとところがあります。コスモスが風に揺られている姿は、とてもきれいで心が癒されますので、学校をはじめ、あちらこちらにコスモスの花がさくと、御提案のとおり、市の魅力にもつながることと思います。市教育委員会としては、花を育てることで、学校や地域

がつながり、花いっぱいの魅力あふれる、まごころに満ちたまちづくりにもつながるよう、現在の「花いっぱい運動」を継続していくとともに、花の苗の配布時には、希望する方にコスモスの種を併せて配布するなどを検討してまいりたいと思います。

・山陽小野田市の銘菓をつくる。

(桶谷経済部長)

御存知の通り「せめんだる」は現在つくられておらず、食べられなくなってしまったことは大変残念に思っています。市内のお菓子店などでは、地元で生産された材料を使ったり、市内の地名を使ったりして、それぞれ商品を使ってPRをしておられます。市としても、これらの商品をふるさと納税の返礼品にするなど一緒にPRを行っています。

また、小野田商工会議所では、昨年度、「おのだ名産品グランプリ～2022総選挙～」を開催されました。これは、全国に発信できる名産品づくりを目的に開催されたもので審査員による審査と一般の方からの投票で各賞が決定されました。金賞を受賞した「ヒノデジェラート」は、地元の農家や酒蔵、飲食店と一緒に作られている体に優しいジェラートです。ふるさと納税の返礼品にもなっているほか、市内外のイベントでも、出店してPRしていますので、ぜひ食べてみてください。

全国的に有名な銘菓をつくるためには、製造される方のアイデアはもちろん必要ですが、PRについても継続して取り組んでいくことが大切だと考えていますので、市としても、事業者や商工会議所と協力をして名産品づくりに努めていきます。

・山陽小野田市がSNSを使って情報発信していることをもっと知ってもらう。

(篠原協創部長)

現在、SNSを使った情報発信としましては、LINE、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ユーチューブを活用して情報発信を行っています。それぞれの登録者数は、開設以降、徐々に増加しています。

このSNSでは、市民の皆様の生活に関する情報をはじめ、各種の行事やイベント情報のほか、取材現場からの話題など多岐にわたる内容を発信しております。特に市の公式LINEは、情報発信の中心媒体として力を入れており、様々なイベントで友達登録を呼びかけるなどしております。8月5日土曜日に行われる「小野田七夕まつり2023」においても、会場内にブースを出展し、LINEやインスタグラムの登録を呼びかけ、登録していただいた方には、山陽小野田市の名産品が当たる抽選会などを実施します。御質問のとおり、市内外を問わず、幅広い世代の方々にPRするために、ユーチューブなどのSNSを活用することは、大変有効であると考えています。特に、インスタグラムや、またユーチューブにおけるショートムービーなどは、気軽に見ることができることから、本市においても、御質問にありました、若者の皆様の興味が湧く魅力ある動画の制作に努めてまいりたいと考えております。何よりもまずは本市を知ってもらう、本市の認知度を上げていくためには、本市や本市の観光協会の公式SNSだけでなく、市民の皆様お一人お一人が、本市のPRをしていただくということも大変重要だと考えております。議員をはじめ、市民の皆様方にも、ぜひ、山陽小野田市の魅力発信につきまして、御協力をお願いしたいと考えております。



《質問事項》

- ・ 山陽小野田市の防災対策について
- ・ 小野田駅・厚狭駅の開発について
- ・ 若者が住みたくなる仕事と子育ての両立の街づくりについて（少子化対策）

《市からの回答》

- ・ 山陽小野田市の防災対策について
（辻村総務部長）

山陽小野田市は、歴史的に干拓地を中心とした低地が多くあります。また、海岸や河川には人工的につくられた堤防が多くあります。

絶対に安全な堤防をつくることは出来ませんので、日頃から、河川の状況や、気象情報に注意して、事前の避難を心がける必要があります。災害に対して人ができることは限られています。命を守るためには逃げるのが一番大事です。市としても、「山陽小野田市地域防災計画」を策定して、災害の種類ごとに、市や消防などの関係機関の対応について準備しています。この中には、市民の皆さんの自発的な防災活動についても触れています。

また市では、災害からの「逃げ遅れゼロ」を目指して、市民の皆さんが必要な防災情

報を早く確実に入手できるよう、スマートフォンやテレビなどの様々な媒体を使って情報伝達を行っています。リアルタイムで、河川の水位や状況を確認できるシステムを整備しました。市のホームページの防災情報を見ただけだと思いますし、先ほど紹介ありましたが、市の公式LINE登録者には、プッシュ式で防災情報通知しておりますので、こちらのほうも利用していただければと思います。この機会に、皆さんもぜひおうちの方と一緒に避難の方法について考えていただければと思います。

・小野田駅・厚狭駅の開発について

(大谷建設部長)

初めに、小野田駅の改札口、改札を北口にも設置してはどうかについて御説明、御回答します。まず駅について少し説明します。駅は、各鉄道事業者が設置し、管理しています。御質問の小野田駅は、西日本旅客鉄道株式会社、通称JR西日本が設置し、管理をしています。このため、小野田駅の北口に新しい改札を設置するかどうかは、JR西日本が、利用者のニーズや、コスト面、安全面など様々なことを検討されて、判断されることになりますので、山陽小野田市が、改札の設置を決定し、設置することは、残念ながら出来ません。小野田駅の北側は、議員も御存じのとおり、高千帆中学校をはじめ、幼稚園、小学校、高等学校といった、学びの施設と、住宅とが一体となった良好な景観が形成をされています。このことから、小野田駅の北口に改札ができれば、市民の利便性の向上につながるとともに、新たな魅力の創出が期待できるのではないかと考えています。小野田駅周辺がにぎわいのある快適なまちとなりますよう、JR西日本への要望等、検討してまいりたいと考えています。

続いて厚狭駅周辺の防災対策について御回答します。厚狭駅周辺を流れている川は、厚狭川、桜川、大正川があります。平成22年7月には、厚狭川が氾濫し、大規模な浸水被害が発生いたしました。これを受けて河川の管理者である山口県において、災害対策工事が行われ、以降、今日まで、平成22年当時に相当する大雨が降っても、厚狭川は氾濫していません。しかし、厚狭川へ流れ込む桜川、大正川の氾濫の解消には至っていないというのが現状です。また近年の異常気象により、これまでは、何十年に1度と言われていた規模の災害が毎年のように、全国各地で発生していることから、厚狭川においても、今後どのような雨が降っても氾濫しない、と言い切ることは出来ません。では、このような中で市は、厚狭駅周辺の防災対策をどのように考えているかについて、御説明をします。防災対策は、物理的な被害の軽減につながる施設や、構造物などの形ある実態を整備するハード対策と情報や、訓練などの形のない要素によって、災害対策の効果を得るソフト対策があります。ハード対策といたしましては、護岸の整備や川底にたまった土砂の撤去工事、排水機場のポンプの整備など、また、ソフト対策といたしましては氾濫時の危険か所や、避難場所等の情報掲載をした洪水ハザードマップの作成や河川の監視カメラを設置し、誰でも市のホームページから川の状況を見ることができるようにし、メールやLINE等により、防災情報を発信し、避難行動を促す等をしています。このように市では、ハードソフトの両面から防災対策に取り組んでいます。防災対策において最も重要なことは、人命を守ることであると考えております。多額の費用を要し、必要とする、ハード対策には限界がありますので、ソフト対策と組み合わせることにより、災害が発生しても、かけがえのない尊い命を守ることができるよう取り組んでまいりたいと考えています。

・若者が住みたくなる仕事と子育ての両立の街づくりについて（少子化対策）

(吉岡福祉部長)

議員お尋ねの働く子育て家庭の仕事と子育ての両立を図るための、具体的な支援施策としては、保育所、幼稚園等の保育サービスの充実や、児童クラブの充実、お子さんが急に病気になったときに預けることができる病児保育事業、児童を養育している保護者が、児童、仕事、病気その他の事由により、家庭での児童の養育が一時的に困難な場合に預けることができる子育て短期支援事業などがあります。本市では、子育て支援施策について、重要課題と位置づけておりまして、各方面からの子育て支援施策に取り組んでおりますが、今後とも、より一層充実できるように努めてまいります。

続いて御質問では、放課後子供教室ということでしたが、内容が児童クラブについてのことでしたので、児童クラブの小学校6年生までの受入れについて回答させていただきます。

山陽小野田市の児童クラブは、11小学校区で12クラブ、21クラスありまして、そのうち6年生までが受入れが出来ているのが、本山、小野田、有帆、出合、厚陽、埴生の各児童クラブ、3年生までしか受入れが出来ていないのが、赤崎、須恵、高泊、高千帆、厚狭、第2厚狭の各児童クラブで、その施設につきましては、児童館、小学校の余裕教室、専用施設などその校区にある資源を活用しています。全校区6年生までの受入れを実現するには、まず、児童クラブを実施する施設を用意する必要がありますが、議員御提案の放課後の小学校の教室の活用につきましては、児童個人の物品が置いたままであったり、児童クラブで使用する際には、ロッカーなどを共有することとなったりするため、小学校と児童クラブとの備品の管理が困難でありまして、その活用は難しいと考えています。市ではこれまでも施設を確保するために、小学校の空き教室や商業施設の空き店舗など、適した施設がないかを探してまいりましたが、現時点では、施設の確保に至っていません。引き続き、解消すべき課題として検討してまいります。

なお、人材の確保につきましては、児童クラブの運営においては、民間事業者へ委託して実施しておりますが、本市の委託している事業者は、既に、地域住民や夏休みなどで長期休暇中の大学生を支援員補助員として雇用しておりますので、引き続き、地域の人材を有効に活用してまいりたいと考えています。





《質問事項》

- ・厚狭駅をもっと元気にしたい！
- ・厚狭で子育てしたい人を増やしたい！
- ・自然災害から厚狭のまちを守りたい！
- ・農業で厚狭のまちを元気にしたい！

《市からの回答》

- ・厚狭駅をもっと元気にしたい！

(桶谷経済部長)

厚狭駅は、山陽新幹線や山陽本線、美祢線が接続する本市の玄関口であり、県内はもちろん、全国からも多くのお客様に来ていただけるポテンシャルを秘めていると考えています。

現在、市では、新しくお店を開きたいとか、独立して自分のお店を構えたいなどの創業希望者に対して、商工会議所などの支援機関と連携をして支援を行っています。具体的には、起業塾の開催や出店希望の方が、おのだサンパークで、一定期間出店できるチャレンジショップなどがあります。また、小野田駅前や厚狭駅前の商店街の空き店舗の活用を進めるため、空き店舗をリニューアルする場合の補助金制度もあり、厚狭駅前に

も、この制度を利用して出店された方がいらっしゃいます。

また、商店会についても、ホームページの厚狭駅前.com で駅前のグルメやお店を紹介したり、「寝太郎の里おひなさまめぐり」などのイベントを主催されたり、駅前イルミネーションに協力されるなど、活性化に努められており、イベントの際には、多くのお客さんでにぎわっています。

若い皆さんが喜ぶようなお店が少ない現状ではございますが、市としても商店会や商工会議所と協力して、厚狭駅前の活性化に努めていきたいと考えています。皆さんもぜひ、普段から商店街のお店を利用したり、イベントに参加していただければと思います。議員さんのように、厚狭駅周辺の活性化を願う若い方のアイデアや行動力、そして情熱は、今後の活力創出に欠かせないものです。市も皆さんと一緒に、厚狭駅周辺を盛り上げていきたいと思いますので、今後とも、厚狭に住んでよかった。来てみてよかったと実感できるまちづくりに御協力くださいますようお願いを申し上げます。

・厚狭で子育てしたい人を増やしたい！

(吉岡福祉部長)

複数のお子様をお持ちの御家族への支援につきましては、国の制度として、保育所の保育料が、原則として同時入所の第一子がいる場合には、第二子は保育料が半減、第三子以降は無料となっております。また、児童手当につきましては、第三子以降には加算がございます。その他の子育て支援としましては、国の制度として、出産子育て応援給付金や市の独自施策として、小学校中学校入学時に入学祝い金を支給しているところでございます。

次に、子供を預けたいときに、登録をしていなくても、自由に無料で預けられる施設を設ければいいのではないかと御質問ですが、確かにお子さんを登録していなくても自由に預けられる施設があれば、子育て世代の心強い味方になると思いますが、まだ自分の意思を表せない乳幼児を安全に預かるためには、事前にアレルギーのことや普段の様子を保護者から情報提供していただくために、登録が必要であることも御理解いただきたいと思います。また事前の申込みや登録をすれば、市内の保育所での一時預かり事業では、保護者の急な用事以外にも、育児疲れ解消等の理由でも御利用をいただけますし、病気のために保育所に登園出来ないときは、病児保育所を利用することも可能でございます。皆さんが、将来、子育て世代になったときに、安心して子育てできる制度や子育て世代に温かい地域づくりになるように努め、子育て世代から選ばれる魅力的な山陽小野田市にしていきたいと考えております。その中で今回御提案いただいた子育て支援サービスも参考にさせていただきたいと考えております。

(大谷建設部長)

小さな子供さんたちが安全に楽しく遊べる公園を増やすことにつきましては、近年、少子高齢化が進み、子供の数が減少し、高齢者が増えていることから、公園の利用者も変化をしています。このようなことから今後、公園を整備していく場合は、小さな子供さん以外にも、大人やお年寄りまで幅広い世代が利用できるような、整備を検討していく必要があると考えています。次に遊具の補修につきましては、利用者の皆様に安全に、そして安心して遊具を利用していただけるよう、遊具が設置しています。これにつきましては、市の職員が年2回、定期的な点検、また、専門業者による年1回の点検を行っています。そして、この点検の結果に応じて、危険頻度の高い遊具から順番に修繕を行っていることから、修繕までに少しお時間をいただく場合がございますので、御理解い

いただきますよう、よろしく願いをいたします。

また、中学生が中心となって、清掃ボランティア等の活動を行いたいとの御提案につきましては、心より感謝をいたします。担当課の職員も、この御提案を聞き、より一層公園の適正な維持管理に努めていかなければならないとの思いを強くした次第でございます。ただ、清掃ボランティアをされる際は、けが等されないよう十分に注意され、実施していただきたいと思います。なお、実施にあたり、不安なこと等がありましたら、遠慮なく市役所の都市計画課に御相談いただければと思います。

最後に、厚狭地域には、物見山公園や寝太郎公園、桜公園などがありますが、いずれの公園にも、バスケットコートやテニスコート、アスレチック等の施設はございません。現在、厚狭地域に、議員御質問のような施設がある公園を整備する計画はございませんが、既存の公園の老朽化した遊具等の更新を行う際には、施設の充実についても検討してまいりたいと考えております。

続きまして、自然災害から厚狭のまちを守りたいにつきまして御回答させていただきます。まず、初めに、河川の種類につきまして御説明をさせていただきます。河川は法律によりその種類と管理者が定められています。具体的には国が指定し管理する一級河川、都道府県が指定し管理する二級河川、市町村が指定し管理する準用河川、そしてこれら以外の河川の４種類に区分をされています。議員御質問の厚狭駅周辺には、厚狭川をはじめ、桜川、大正川といった二級河川や、その支流には狭間川大道畑川の準用河川、その他の河川が流れています。議員の御質問にもありましたが、平成２２年７月には厚狭川や桜川などが氾濫したことにより、厚狭駅周辺の地域は、多数の家屋の浸水や、交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水等、甚大な被害が発生をいたしました。これを受け、河川を管理されている山口県において、この豪雨規模の洪水による浸水被害の軽減を目的とした厚狭川や桜川の護岸の工事やしゅんせつ工事、さらに大正川の排水機場にポンプを２台増設するなどの整備を行われております。この整備は桜川については、３０年に１回程度発生する洪水を流すことができ、また川から越流し、周辺に水がたまった場合でも１０年に１回程度の洪水までは床下浸水に抑えることを目標とした内容となっています。また、市におきましては、東下津の排水機場にポンプ３台、増設するとともに、準用河川やその他の河川において、しゅんせつ工事を実施しております。このように、河川の整備事業を進めてまいりましたが、先日の６月３０日から７月１日にかけて降った豪雨により、桜川が氾濫し、家屋が浸水する等の被害が発生をいたしました。このため、河川の管理者である山口県では、河川に堆積した土砂を取り除く、しゅんせつ工事の計画を考えておられます。

市におきましても、準用河川やその他の河川について、しゅんせつ工事を引き続き実施をしてまいります。しかし、現在、全国各地で発生しております異常気象を考えますと、このような整備をしたから、もう絶対に大丈夫であると言い切ることは出来ませんが、市民の皆様が安心して山陽小野田市で暮らしていただけるよう、今後も引き続き、河川の管理者である山口県と連携して、河川における氾濫対策について検討してまいりたいと考えております。

・自然災害から厚狭のまちを守りたい！

（辻村経済部長）

防災減災の意識を高める活動について御回答します。皆さんが１番に頭に思い浮かべられるのは防災訓練だと思いますが、このほかにも、小中学生の皆さんにも参加していただける活動の一つとして、「山陽小野田市防災標語コンクール」があります。

これは中学生の皆さんがお持ちのタブレット端末、クロームブックで簡単に参加していただくことも出来ます。9月15日まで募集していますので、この機会にぜひおうちの方お友達の皆さんと一緒に、防災について考えていただき、市民の皆さんの意識を高めていけるような標語をつくっていただいて、応募していただければと思っております。

(吉岡福祉部長)

避難所の準備品等について御回答申し上げます。災害で住宅が被害を受け、帰宅することが出来なくなった場合、応急仮設住宅等の転居先が決まるまでの間、市の指定する避難所等で生活されることになります。市では避難所を開設した場合に備え、アルファ米などの食料や紙おむつなどの生活必需品のほか、避難所運営に必要なパーティションや簡易ベッド、感染症対策用品などを備蓄しています。また、避難所を開設するような事態になった場合に備え、様々な企業や団体と応急対策や物資の調達などに関する災害応援協定を締結しています。このように、市では、避難された方が安心して過ごせるよう準備をしているところでございます。

・農業で厚狭のまちを元気にしたい！

(桶谷経済部長)

若い農業従事者を増やす取組を行うことは出来ないかという御質問ですが、若い農業従事者を確保するために、年2回開催されます農林水産業新規就業ガイダンスに参加し就農相談を受けたり、就農希望者から相談依頼があれば、山口県やJAと一緒に随時面談を行っています。また、農業を始めて経営が不安定な初期に国から補助金として、最長3年間、年間150万円が支給される事業の活用や市独自の支援事業として経営初期は設備投資に経費がかかるため、最長5年間、パイプハウス等の設備購入経費の半額補助や、農業用機械の購入経費の半額補助を受けることが出来ます。また、市外から市内へ移住し、アパート等の賃貸住宅に住まわれた場合は、家賃の補助を行っており、最大で約2000万円の支援を受けることができ手厚い支援を行っております。

次に、就業体験や農地を若者へ譲ることができる支援に取り組んでいますかという御質問ですが、就業体験につきましては、農業に興味がある方について、地元農家とマッチングして農業体験を行うことが出来ます。また、防府市にあります山口県立農業大学校において、年4回実施をされます、平日4日間で農業の基礎知識や作業体験ができる短期入門研修を御案内しています。また、農地を若者へ譲ることができる支援につきましては、農地の所有者から無償で借りて耕作できる制度がございます。実家が農家でない方が農業を始める場合でも、農業委員会と連携して、農地の確保することが出来ます。去年は、およそ140件の実績がございました。若い方で、この制度を利用して農地を確保し、農業をしている方もいらっしゃる、一例として、今年から山口東京理科大学の学生さんが実際にこの制度を活用して耕作をされています。

最後に、小中学生が授業の一環として農業体験を行うことは出来ないでしょうかという御質問ですが、若いうちから農業に関心を持ってもらうためにも、小・中学生が農業体験を行うことには意義があると思います。現在も学校行事としてではございますが、高泊小学校で毎年、梅もぎや茶摘みを行い、体験学習として、市内の小学校でシイタケのコマ打ち体験を行っています。今後も教育委員会と連携をして、引き続き実施していきたいと考えております。



《質問事項》

- ・農業に関わりたい若者の誘致。
- ・ゴルフ場を使って音楽フェスを開催。
- ・厚陽小中学校の生徒を全国から募集する。
- ・案件で多少有名なユーチューバーに山陽小野田市をPRしてもらう。

《市からの回答》

- ・農業に関わりたい若者の誘致。

(桶谷経済部長)

現在、本市の農業につきましては、高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加など様々な課題がございます。若い人が農業に関心を持ち、職業として農業を選択していただくことは、本市の農業活性化につながると考えています。

御質問のありました、田を無償で提供することにつきましては、田や畑の所有者から農地を無償で借りて耕作できる制度があります。実家が農家でない方が農業を始める場合でも、農業委員会と連携して、農地の確保をすることが出来ます。昨年は、およそ140件の実績がありました。若い方で、この制度を利用して農地を確保し農業をしている方もいます。1例として、今年から山口東京理科大学の学生さんが、実際にこの制度を活用して耕作をされていらっしゃるようです。

また、農業を始めて経営が不安定な初期に、国から補助金として、最長３年間、年間１５０万円が支給される事業がございます。さらに、市独自の支援事業として、経営初期に、設備投資経費がかかるため、最長５年間、パイプハウス等の施設購入経費の半額補助や、農業用機械の購入経費の半額補助を受けることが出来ます。また、市外から市内へ移住し、アパート等の賃貸住宅に住まわれた場合は、家賃の補助を行っており、最大で約２０００万円の支援を受けることが出来、手厚い支援を行っております。

また、本市では、移住者を増やす取組として、移住支援員を配置し、移住を検討する皆さんからの相談に丁寧に応じるとともに、移住定住ポータルサイトやインスタグラムなどを活用した情報発信に取り組んでいます。さらに、お試し暮らし制度を昨年１２月から開始し、本市での暮らしを体験してもらい、若い人に移住してもらおうと、ＰＲをしています。

今後も、１人でも多くの方が本市に就農していただけるよう、移住相談や就農相談を活用しながら、支援事業をＰＲするとともに、農家出身でない方でも農業を始めやすいように、農業委員会と連携をして農地を確保し、農業で本市に移住してもらえよう努めてまいりたいと思います。

・ゴルフ場を使って音楽フェスを開催。

（篠原協創部長）

本市におきまして、多くの人を集めるイベントといたしましては、本市の認知度の向上や、訪れていただく人の増加を図ることのほか、観光での消費の拡大などを目的として、例年１０月に、若者に人気のハロウィンに着目した「スマイル・ハロウィンパーティー」を開催しております。また、１２月には、地元の農産物を広く市内外に周知する、農林水産まつり、１月には、山陽小野田市の名産品を中心に販売する山口名産品フェアなどを実施しているところです。

そのほか、商工会議所や地域の団体の主催による音楽祭やフードフェス、花火大会など、多くの人が集まる様々なイベントが開催されております。

御質問にありました、ゴルフ場でのイベント開催につきましては、３年前にはありませんが、令和２年の８月に和歌山ゴルフクラブにおきまして、シークレットイベントではありましたが、サプライズ花火の打ち上げが行われたことも記憶に新しいと思います。ゴルフ場に限らず、広大な敷地を活用して、大規模なイベントを開催することは、話題性もあり、たくさんの人々が集まることが期待されます。特に御提案のありました、音楽や食に関するイベントは、多くの人の興味や関心を引き、大変魅力的なコンテンツであると考えております。このたびの御意見を参考にさせていただき、地域や各種団体の方々が、魅力あるイベントを実施することができるよう、市といたしましても支援してまいりたいと考えております。

・厚陽小中学校の生徒を全国から募集する。

（長友教育長）

御質問の趣旨からも、厚陽中学校の生徒の皆さんが、厚陽小・中学校を愛している気持ち、そして、厚陽地区を大切に思う気持ち、誇りに思う気持ちが強く伝わってまいりました。大変うれしく感じております。現在、厚陽小・中学校は、市内で最も児童生徒数が少ない学校ですが、小人数小規模であることを、学校の大きな魅力と捉え、その魅力を積極的に全国に発信し、全国から生徒募集したいという、大変興味深い御提案でありました。全国に向けて魅力を発信し、生徒募集するためには、少人数ならではのきめ

細かな教育活動に加え、学校、家庭地域の力を結集し、厚陽地区にある豊かな地域の人、物、事を活用した魅力的な教育活動を展開し、アピールしていくことが求められます。

市教育委員会といたしましても、皆さんのこうした魅力ある学校づくり、魅力ある教育活動を支援してまいるとともに、校区外からの生徒募集については検討してまいりたいと思います。

・案件で多少有名なユーチューバーに山陽小野田市をPRしてもらう。

(篠原協創部長)

本市におきましては、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信といたしまして、昨年度までは、山口県住みます芸人「どさけん」さんに、市内の観光地やグルメスポットなど、本市の魅力発信を担っていただいております。

また、昨年度からは、近隣の市町と連携し、県内のインフルエンサーにより、各市町のグルメスポットをインスタグラムで紹介してもらうなど、県内の周遊を促す取組として、PRを行っていただいております。

御質問にあります通り、ユーチューバーを含めたインフルエンサーなど、情報発信に影響力を持つ人に、市をPRしてもらうことは大変有効な手段であると考えております。一方で、本市にありますコミュニティーFMのFMスマイルウェーブにおきましては、通常のFM放送だけでなく、インターネット配信によるサイマル放送も行っており、全国どこでもパソコンやスマホでその放送を聞くことが出来ます。

また、本市独自のスマイルプランナー制度におきまして、スペシャルスマイルプランナーである、西広ショータさんと北永健人さんにつきましては、特に情報発信力にひいていた方としまして、登録をしていただいているところでございます。このような情報発信につきましても、市としては大変期待しているところでありまして、本市といたしましてもしっかりと連携を図ってまいりたいと考えております。

この度いただきました御意見を参考に、ホームページやインスタグラム、ユーチューブなどのSNSを活用し、本市のPRや観光情報の発信を行ってまいりたいと考えております。また皆さんの中でも、これはというものがあれば、御自身のSNSなどに取上げていただき、本市のPRや情報発信をしていただきますようお願いをいたします。

**《質問事項》**

- ・公園の遊具の定期的な点検、修繕（塗装）などを行ってほしい。
- ・公園にゴミ箱の設置をしてほしい。
- ・日頃使われていない施設をもっと利用して、マーケットなどを開いてほしい。

《市からの回答》

- ・公園の遊具の定期的な点検、修繕（塗装）などを行ってほしい。
 - ・公園にゴミ箱の設置をしてほしい。
- （大谷建設部長）

山陽小野田市内には大小合わせて約80近くの公園があり、その約9割の公園には遊具が設置をされております。遊具のある公園につきましては、利用者の皆様に安全に、そして安心して遊具を利用していただけよう、市の職員による年2回の定期的な点検、また、専門業者による年1回の点検を行っております。

この点検の結果に応じて、危険頻度の高い遊具から順番に修繕を行っております。このため、一度に全ての遊具の修繕、塗装が出来ていない状況があり、利用者の皆様に、御不便をおかけしていることもあります。安全に、そして安心して遊具を御利用いただけるよう、計画的に修繕、塗装等を行ってまいりますので、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。また、議員が公園を利用され、遊具を利用される上で、気になること等がありましたら、市役所の都市計画課まで御連絡いただくと大変幸いです。市といたしましては、これからも、公園が安全、安心して、そして楽しく、皆様

に利用していただけるよう、引き続き、公園の適正な維持管理に努めてまいりたいと思います。

続きまして二つ目の公園にごみ箱を設置してほしい、また今ある場所でも捨てたくなるごみ箱の設置をしてほしい、につきまして御回答させていただきます。市内の公園には、利用者の皆様に、ごみを持ち帰っていただくようにしているため、現在、ごみ箱を設置しておりません。議員御提案のとおり、公園内にごみ箱があれば、確かに便利であることは間違いのないと思いますが、ごみ箱を設置すると、家庭ごみを捨てる人や、カラスなどがごみ箱のごみを荒らし、環境的にも、衛生的にも悪くなるなど、問題が出てくることが考えられ、公園の利用者が安心して利用することが出来なくなることを懸念しております。このようなことから、市では、ごみ箱を設置しないことで、公園内の環境の美化と衛生を保つことができると考えております。

議員御提案の音声や映像が流れるごみ箱の設置、またソーラーパネルの活用などにつきましては、大変ユニークなアイデアで人々の関心を引き、ごみ箱の収集については効果が見込めるのではないかと思います。しかし、先ほど申し上げました、家庭ごみやカラスの問題など、解決しなければならない問題もあるのではないかと思います。

市といたしましては、このたびの議員の御提案を契機に、どのようにすれば、公園を環境的、衛生的に安心して、皆様に御利用していただけるのか、ごみ箱の設置を含め先進事例等を参考にしながら、研究してまいりたいと考えております。議員におかれましては、今後も公園に関心を持っていただき、新たな御提案等がありましたらぜひお知らせくださいますよう、よろしくお願いをいたします。

・日頃使われていない施設をもっと利用して、マーケットなどを開いてほしい。

(古川副市長)

津布田小学校におきましては、昨年の3月に廃校となったところでございますが、昨年、あそこの利活用については、昨年夏にキャンプファイヤーなどのイベントが行われたということは伺っておりますが、その後、この施設をどのように使うか長期間的に、長期的な活用方針、恒常的な方針については、まだ定まっていない状況でございます。そうした中、今年度、ここの津布田小学校の跡地をいかに、どのように使うかというのを、津布田小、津布田地区の皆様方と、市が一緒になって、ワークショップ、いろんな話し合いを行っているところで、この、跡地をどのように使うかというのを今話しておるところでございます。そうした中にございまして、今議員のほうから提案のありました各教室に、小さなお店を出店する形での校舎の利活用、またイベントをしてはという御提案がございました。それを受けまして、このワークショップのほうにも、今の御提案を、投げかける中で検討を加えていきたいと思うところでございます。

このように、地域の問題を地域の方々が中心になって考えていただき、行政と一緒に、地域をよくしていくというのが、協創のまちづくりにつながるというふうにも考えております。そうした中で、特に、議員のような若い目線での意見、また提案が、大変私どもにも参考になりますので、今後とも、活発な意見、自分がこうしたらいいという意見がございましたら提案をしていただけたらというふうに思います。



【議長感想】

厚狭中学校 厚見 唯人 議長

今日の市議会で、各学校の、この町をよりよくするための質問や執行部の答弁を聞き、市議会の議長という貴重な体験をさせていただいたので、これからの学校生活などに生かしていきたいと思います。今日はありがとうございました。

竜王中学校 山縣 千種 議長

今日の中学生市議会では、様々な視点からの意見があり、私自身も山陽小野田市についてもっと知ろうと思える良い経験になりました。ありがとうございました。



日程２ 講 評

山陽小野田市長 藤田 剛二 様

皆様お疲れさまでございました。すばらしい議事進行をしていただきました、厚見議長さん、山縣議長さん、お疲れさまです。そして市内の６中学校から１２名の議員の皆様方から落ちついて立派な御対応で御質問いただきました。本当に内容もすばらしく感謝を申し上げたいと思っております。

今日は１２名の議員さんから、２１項目についての御提案等いただき、部長や副市長が中心といたしまして、本来の議会と全く同じ熱量でお答えをさしていただいたというふうに思っております。皆様方の質問内容は、すばらしく本当に市政のことを十分考えていただき、一人一人が自分の言葉として発言をしていただいたということに感謝をしております。

一つ一つの御提案内容について私から申し上げることは差し控えてもらいます。

総合計画に関することをおっしゃっていただいた方もおられ、大変ありがたく思っております。今１２年間の総合計画をスタートしております。これは２０１８年から２０２９年度までの１２年間で４年ごとに、前期、中期、後期と、段階を重ねており今ちょうど中期の２年目という状況でございます。この中期の４年間の計画をまとめて重点施策として掲げております。

三つの重点施策の中に、全てで９項目あるわけですが、特にこの４年間で力を入れていきたいという項目があります。例えば、災害に強いまちづくり、子育て支援の充実、文化スポーツの振興、地域経済の活力増進等が、この中に網羅されていますが、今日御意見御提案いただいたものは、この９項目にかなり合致しているものばかりであり参考にさせていただきたいということ強く感想として持ちました。

具体的な御意見、御提案、御要望もたくさん入っております。それにつきましてはまず皆様がおっしゃっている目的や趣旨、なぜこういうふうに要望されているのか提案されているのか、それをしっかり我々が受け止めないといけないと思っております。

あわせて、本当にその具体論が実行可能か、時間がかかるものなのか等も含めて議論をして、それをこれからの予算にも反映していくということを実際我々もこれから行動に移していきたいと思っております。今日の回答の中では、皆様方が十分納得できるものばかりではなかったかもしれませんが、我々は十分それを受け止めておりますので、一つでも二つでも、皆様方の御意見が、これからの市政に反映できるように、我々も努力をしていきたいと思っております。

今回が４回目となる中学生市議会です。市では、次年度の事業を計画するときに部長や課長を中心に提案が上がってきます。そのときに予算査定というものがあります。その中で、この中学生市議会提案というところを、チェックするような項目を昨年から加えております。したがって、今我々が提案して、これをやっていこうという中で、今日のような皆様方が御提案いただいたものと同じ事項であれば、それはチェックが入って、より優先順位が上がるという仕組みも今作っております。

昨年度につきましては、直接的に、おっしゃっていただいたことそのままとはちょっとずれることもありますけれども、大きな趣旨とか、そういったことを含めて、皆様方の御提案が事業化出来たものが幾つかあります。サッカー場周辺の施設の向上であるとか、江汐公園の改善、ゴルフ、サッカーの活用、空き家の利用等は、これをしっかり事

業としてまた予算化もして取り組んでいるということでございます。これは皆さん方の御発言すばらしかったということで、一過性に終わるのではなく、それをちゃんと市政に反映していこうということを我々もしっかり、そういう考えに基づいて、今、まちづくりをしているところで、そういったことも皆さん方に御報告しながら感謝を申し上げたいというふうに思っております。

あわせて強く思うのは、皆様方の世代の中で、山陽小野田市を本当に深く愛していたでいて、このまちをもっとよくしたいという思いが本当に伝わってきます。それがすごくうれしく思っています。これからの山陽小野田市をよりよくするのは我々も責任持ってやりますが、皆様方が中心になってきます。山陽小野田市をもっといいまちにしてほしいなということについてはですね、本当に大きな期待が持てると感じさせていただく、すばらしい内容だったなというふうに思っております。

今日はこういったすばらしい会を主催していただいた山陽小野田市ふるさとづくり協議会の大本会長さんをはじめ関係皆様方に感謝申し上げます。それから市議会の皆様方、高松議長はじめ、こういう神聖な場所を使わせていただき、うれしく思っております。また教育委員会、各6中学校の学校現場の皆様方にも大変な御協力をいただいたと思っております。特に今日は、12名の議員の皆様方が御発言をされましたけれどもそれはあくまでも、それぞれの学校の中でいろんな議論を重ねていただき、それを集約し、代表者として発表されたのだらうと思っております。今日の発言の背景には、それぞれの中学校の皆さんがおり、一人一人が今考えていることをまとめていただいたのだと思っておりますので、全ての中学校生徒の皆様方に感謝を申し上げたいというふうに思っております。今日は本当にありがとうございました。



山陽小野田市議会議長 高松 秀樹 様

市議会議長高松です。皆さん、緊張したと思います。議員も最初、今もそうだという議員もいらっしゃると思うのですが、まずその席に座るだけで緊張します。質問席にお2人ずつ出られましたけど、この席に来るとさらに、我々議員でも最初の頃は緊張して、喉もからからだったり、汗がたくさん出たりということがあります。皆さんは緊張の場面で今日議会を行われたというふうに思っております。

市長も先ほど申されましたようにここは神聖な議場です。その神聖な議場で、このは

り詰めた空気の中で、非常に緊張感のある時間だったとっております。さらに全体的によく練った質問を持ってこられたというふうな印象を持っております。

講評としてまず、厚見議長、山縣議長ですが、すばらしい議事進行だったと思います。私の議事進行もネットに出ておりますので興味があったら見てください。

1番最初竜王中の小路議員、中野議員は恐らく納得出来ない答弁もあったと思います。しかしながら、鋭い追及があり、そして新しい提案もされ大変すばらしい内容だったとっております。

次に小野田中学校の河本議員、山田議員につきましては、質問席で、どういうたたずまいでいらっしゃるのかなと見ておりましたが、まっすぐ答弁者を見ていらっしゃいました。一言も聞き漏らしまいという姿勢がまずすばらしくあったというふうに思っています。非常に鋭い視線で見られたということで教育長も、そこで発言を間違えたというふうに理解をしております。

次に高千帆中の坂本議員、矢田議員。まず防災の質問、よく調査されているなと思いました。今回の質問は高千帆中の生徒だからできる質問で、問題意識がかなり高いなというふうに理解出来て大変良い質問だったというふうに思っております。

厚狭中学校の伊藤議員、高木議員。この2人はですね非常にはきはきとした発言で、地域愛、また厚狭の愛が、あふれる質問となっており、聞いていても大変すばしかったというふうに思っております。

厚陽中学校の河口議員、山本議員ですが、この2人は緊張感がすごく伝わってきました。その緊張感の中でしっかりした質問であったというふうに思っております。特にユーチューバーの提案は、私が聞いておっても非常に興味深い質問で、我々議員も次こういう質問、もしかしたら誰かするのではという気がしております。

最後に埴生中学校の坂本本議員、山崎議員です。これは、生徒集会か何かで全体的に考えたということだったのですかね。個人の質問じゃなくてそうであれば、まさしく我々も一緒ですが我々もやっぱり市民の皆さんの意見を聞いて、質問を聞いて要望を聞いて、ここで登壇して質問するというプロセスをとりますので、全く同じプロセスなのかなと感じました。さらに質問席に立つと我々議員も早口にならざるを得ないんですけど、お2人の聞いておったら、自信を持ってしっかりとゆっくりと発言が出来ているというふうに感じました。

全体的に見てですね、皆さんを見ていて実は休憩時間にも同僚議員と話しておったのですが、この山陽小野田市の未来は明るいと思いました。ぜひ、今後も山陽小野田市のことを考えながら成長していただきたいと思います。本日はありがとうございました。



山陽小野田市教育長 長友 義彦 様

皆さん、今日はお疲れさまでした。学校とは違う雰囲気の中でとても緊張したことと思います。私も大変緊張いたしました。何か一つのことを乗り越えた今の気持ちはどうでしょうか。その気持ちや、今日感じたことを、ぜひ友達や、学校の先生、おうちの方々と一緒に話してもらいたいなというふうに思います。今日の議題は、皆さんの体験から出てきた問題を身近にあることとしてしっかり吟味して考え、質問してくれたものであったと、大変高く評価をしております。質問するためには、理想とする状況と現実との違いを認識して、なぜそうなるのだろうかとか、そうならないためには何が必要なのだろうかを考える必要があります。理想や現実の状況を知るためには、多くの情報が必要です。こうした情報を十分に吟味したからこそ、今日のような質問が生まれたのだろうというふうに思います。これからはこうした情報を活用する能力が大変重要となってきます。今日までの中学生市議会に向けた経験を大切にしてもらい、これからも地域のこと、自分自身のことについて深くじっくり考えられることを期待しております。そして、身近にある課題について考えることが出来たわけですから、さらに、大事なこととして、課題の解決について、誰かがしてくれるものと考えてるのではなくて、自分がまずできることは何か、仲間と一緒にできることは何かをあわせて考えてもらいたい、そして考えたことを実行してもらいたい。実行したらそれについて振り返りをしてもらいたいというふうに考えております。こうした、見通しを持って取り組んだり、振り返ったりすることは、今からの皆さんに大変役に立つことです。中学3年生の皆さんは、高校受験がありますよね。その受験に向かって、どういう取組方も同じです。しっかりと目標を持って、実行して、振り返って、それを何度も繰り返して、目標に向かって進んでいただければと思います。結びになりますが、このような学校では出来ない貴重な学びの場を生徒に提供してくださった山陽小野田市ふるさとづくり協議会の皆様をはじめ、御協力いただきました市議会議員の皆様、市長をはじめ、市職員の皆様、そして衛生を御指導いただきました先生方に深く感謝を申し上げ、私の講評といたします。本日はどうもありがとうございました。



日程３ 主催者お礼

山陽小野田市ふるさとづくり協議会 会長 大本 章男

今日は本当にありがとうございました。市長、議長、副市長、教育長さん、本当にお忙しい中、また、部長さんも、本当に忙しい執務の中を、こういうふうに時間とっていただきまして、誠にありがとうございました。また、中学校の先生方、傍聴席の方も、最後までありがとうございました。

これは中学生市議会ということで、今日は皆さん（中学生）が１番メインになると思うのですが、私どもが考えています中学生市議会は、皆さん（中学生）が、いろんな問題を考え始めてから中学生市議会が始まっていると思います。そのため、１ヶ月２ヶ月ぐらいの期間で中学生市議会が始まって、要は、皆さんのいろんな地域の問題、どういうふうに考えて、いうことが１番大切なので、これから、あと２０年３０年、また４０年先に、今の気持ちを忘れない、地域のために活躍いただいて、よりよくしていくということを忘れないで、今の気持ちを続けていただきたいと思います。改めて、今日はありがとうございました。

